

# 市長が行く

## 災害への備え Part 2

No.74

茂原市長 田中豊彦



9月9日から11日にかけて、茨城県・栃木県・宮城県を襲った台風18号による豪雨は、河川の氾濫を引き起こし、多くの被害をもたらしました。3県では、死者8名（9月16日現在）の犠牲者が出てしまいました。

茨城県では、上流部における降りはじめからの雨量が最大で600ミリに達し、各地で川が急激に増水し、鬼怒川の高さ3メートルから4メートルの堤防も、各所で決壊や越水が発生してしまいました。2年前の茂原でもそうでしたが、今回の急激な豪雨は、想定外の猛威を振るい、決壊した堤防から流れた濁流は一瞬にして低い地域に襲いかかり、私たちは、自然の猛威を改めて思い知らされました。

2年前にもこのコラムで再三にわたり書きましたが、もはや想定外という言葉がむなしく感じるほど、人間の力ではどうしようもないくらいに異常気象が続いています。

今、茂原市においては100ミリ安心プランの名のもとに、千葉県が河川改修と調節池の整備に取りかかろうとしています。しかし、いかに人為的に災害を未然に防ごうとしても、今回のような予測のできない豪雨がこの地域を襲つたらひとたまりもありません。

行政の避難勧告の出し方が、今回も問題視されましたが、普段から様々な災害を想定してシミュレーションを行い、少しでも備えを強固にしておくことが必要と考えます。

また、避難勧告を出しても、自己判断で避難をしなかった方も多かつたようです。今ままで大丈夫だったからこれからは、もうないのです。私たちは、今までの経験値は今後あまり役に立たないということを、肝に銘じるべきでしょう。

幸いにして、気象予報は昔に比べてかなりの精度を誇るようになってきました。私た

ちはそれを活用し、災害から人命を守ることを最優先事項とし、迅速に取り組んで行けるよう日々努力を続けていかなくってはなりません。

まだまだ台風の季節が続きます。市民の皆様も、災害に備えての準備を日頃から心がけてくださるようお願いいたします。

今回の災害に関しては、本市として、9月15日に救援物資（消毒液）による支援を行っております。



▲防災行政無線